

原 著

上部消化器癌手術症例における 術前免疫強化栄養療法の有用性の検討

山本直人, 大島 貴, 川邊泰一, 深堀道子,
佐藤 勉, 牧野洋知, 藤井正一, 國崎主税

横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科

要 旨: 【目的】 消化器癌待機手術症例における術前免疫強化栄養 (IED) 投与の有用性, および, 抗酸化成分を強化した IED の従来 IED に対する有用性を明らかにする。

【対象と方法】 2008年2月から2008年9月までの待機的胃切除術症例のうち, 31症例について IED 投与を受けた18症例を投与群, 術前 IED 投与を受けなかった13例を非投与群とした。投与群に対して従来の IED (Cz-Hi®) と抗酸化成分を強化した IED (ANOM®) を無作為に投与した。投与群と非投与群で術前後の血液生化学データ, 術後14日以内の感染性合併症発生と術後在院日数を比較。投与群について周術期アウトカムと, 術後の酸化ストレスマーカー (尿中 8-Isoprostane, 尿中 8-OHdG) の測定値を比較した。

【結果】 投与群において術後在院日数が短い傾向 ($p=0.074$) を認めた。第7病日における血清 CRP 値は投与群で有意に低値 ($p=0.007$) であった。IED の種類別で感染性合併症, 術後在院日数に差はなく, 酸化ストレスマーカーの周術期の変化についても有意な差は認めなかった。

【結論】 胃癌手術症例に対する免疫経腸栄養剤の術前投与が血液生化学データの改善および術後在院日数に対する影響について有用な傾向を認めた。また抗酸化成分を配合した新規 IED の従来 IED に対する有用性については明らかでなかった。

Key words: 待機的胃切除, immunonutrition, 術前投与, 術後在院日数, 酸化ストレス